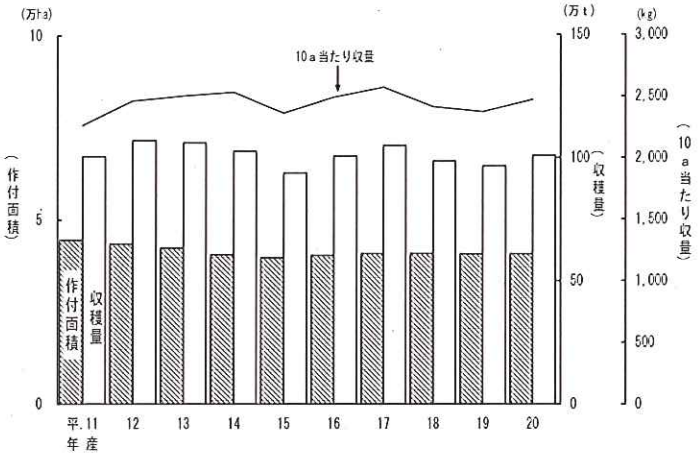
4　かんしょ

(1) 作付面積

平成20年産かんしょの作付面積は４万700haで、前年産並みであった。

これは、宮崎県で醸造用の需要等から増加したものの、全国的に農家の高齢化による労働力不足等により減少したためである。（表４、図４）

図４　かんしょの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(2) 10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は2,480kgで、前年産に比べて４％上回った。

これは、鹿児島県で８月中旬以降おおむね天候に恵まれ、いもの肥大が抑制された前年産に比べて肥大が良好であったためである。（表４、図４）

(3) 収穫量

収穫量は101万1,000ｔで、前年産に比べて４万2,600ｔ（４％）増加した。

これは、10ａ当たり収量が前年産を上回ったためである。（表４、図４）

表４　平成20年産かんしょの収穫量（全国）

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量対比
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%
全国	40 700	2 480	1 011 000	0	100	104	42 600	104	99
うち 茨城	6 430	2 610	168 100	△ 70	99	99	△ 3 500	98	102
千葉	4 920	2 550	125 500	△ 110	98	97	△ 6 300	95	104
静岡	889	2 050	18 200	△ 41	96	102	△ 500	97	100
愛知	528	1 630	8 600	△ 38	93	105	△ 170	98	92
徳島	1 220	2 800	34 200	0	100	112	3 800	113	120
長崎	550	1 710	9 410	△ 1	100	110	870	110	89
熊本	1 230	2 400	29 500	0	100	104	1 200	104	103
宮崎	3 340	2 710	90 500	340	111	111	17 300	124	105
鹿児島	14 000	2 860	400 400	0	100	108	30 800	108	95

注：１　かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、４年周期で全国調査を実施している。平成20年産については全国の各都道府県を対象に調査を行った。

２　主産県とは、全国のかんしょ作付面積のおおむね80％を占めるまでの上位都道府県である。

5　飼料作物

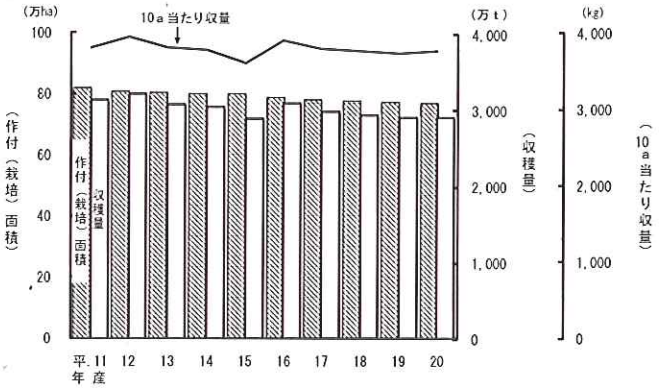
(1) 牧草

ア　作付（栽培）面積

平成20年産牧草の作付(栽培)面積は76万9,000haで、前年産に比べて4,300ha（１％）減少した。

これは、主に北海道において、青刈りとうもろこしへの転換が進んだためである。（表５－１、図５－１）

図５－１　牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は、3,750kgで前年産に比べて１％上回った。

これは、北海道で平年並みであったことに加え、鹿児島県で３月以降おおむね天候に恵まれ、生育が良好であったこと等による。（表５－１、図５－１）

ウ　収穫量

収穫量は、2,880万5,000ｔで前年産並みとなった。

これは、作付(栽培)面積は減少したものの、10ａ当たり収量が前年産を上回ったためである。（表５－１、図５－１）

表５－１　平成20年産牧草の作付（栽培）面積及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10ａ当たり平均収量対比
				作付(栽培)面積		10ａ当たり収量	収穫量			
				対差	対比	対比	対差		対比	
	ha	kg	t	ha	%	%	t		%	%
全国	769 000	3 750	28 805 000	△ 4 300	99	101	0		100	99
うち北海道	558 000	3 360	18 749 000	△ 3 700	99	100	△ 68 000		100	99

注：１　飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成20年産については全国の都道府県を対象に調査を行った。

２　主産県とは、全国の作付（栽培）面積のおおむね80％を占めるまでの上位都道府県及び全国飼料増産行動会議における飼料増産重点地区が設定されている都道府県である。

(2) 青刈りとうもろこし

ア　作付面積

平成20年産青刈りとうもろこしの作付面積は９万800haで、前年産に比べて4,700ha（５％）増加した。

これは、北海道において、配合飼料価格の高騰により、高栄養飼料作物としての作付けが増加したためである。

（表５－２、図５－２）

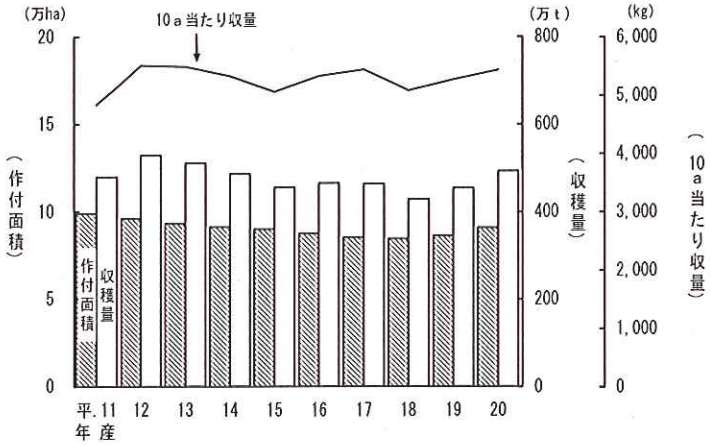
イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は、5,430kgで前年産に比べて３％上回った。

これは、北海道でおおむね天候に恵まれ、生育が良好であったこと等による。

（表５－２、図５－２）

図５－２　青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は493万3,000ｔで、前年産に比べて39万2,000ｔ（９％）増加した。

これは、作付面積が増加したことに加え、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

（表５－２、図５－２）

表５－２　平成20年産青刈りとうもろこしの作付面積及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較					(参考) 10ａ当たり平均収量対比
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量		
				対差	対比	対比	対差	対比	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%
全国	90 800	5 430	4 933 000	4 700	105	103	392 000	109	103
うち北海道	43 300	5 510	2 386 000	5 000	113	104	360 000	118	104

(3) ソルゴー

ア　作付面積

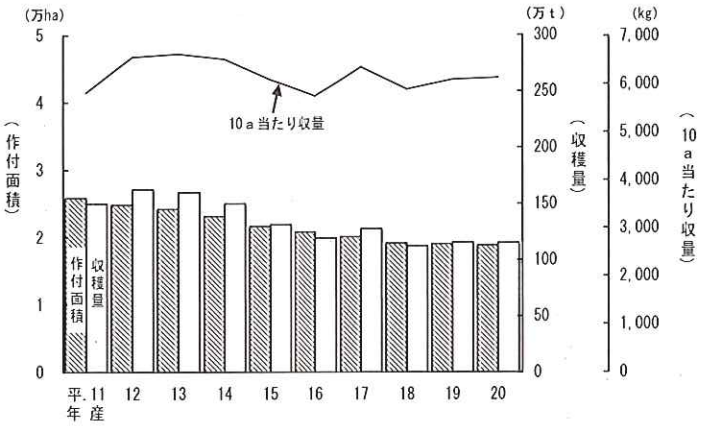
平成20年産ソルゴーの作付面積は１万8,800haで、前年産に比べて200ha（１％）減少した。（表５－３、図５－３）

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は、6,120kgで前年産に比べて１％上回った。

これは、鹿児島県でおおむね天候に恵まれ、生育が良好であったこと等による。（表５－３、図５－３）

図５－３　ソルゴーの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は115万ｔで前年産並みとなった。

これは、作付面積は減少したものの、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。（表５－３、図５－３）

表５－３　平成20年産ソルゴーの作付面積及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	(参考) 10ａ当たり平均収量対比
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%
全国	18 800	6 120	1 150 000	△ 200	99	101	△ 5 000	100	98
うち長崎	2 380	6 000	142 800	90	104	101	7 200	105	99
熊本	1 380	5 990	82 700	60	105	101	4 000	105	95
大分	1 070	6 780	72 500	20	102	90	△ 6 900	91	94
宮崎	4 300	6 220	267 500	△ 220	95	100	△ 14 400	95	96
鹿児島	2 500	7 720	193 000	0	100	104	7 700	104	106

6　工芸農作物

(1) 茶

ア　栽培面積（全国）

平成20年産茶の栽培面積は４万8,000haで、前年産に比べて200ha減少した。

これは、九州で関係機関の作付推進等により規模拡大が図られ増加したものの、その他の地域で価格の低迷等による廃園があったためである。（表６－１）

表６－１　茶の栽培面積（全国）

単位：ha

区　　分	栽　培　面　積	
		専　用　茶　園
平.20年	48 000	46 700
19	48 200	46 900
前年対比(%)	100	100

イ　摘採面積（主産県）

主産県の茶の摘採実面積は４万600haで、前年産に比べて300ha（１％）減少した。

これは、鹿児島県等で近年の新植により摘採園地が増加したものの、静岡県等で高齢化による廃園等により減少したことによる。

なお、摘採延べ面積は９万3,000haで、前年産に比べて800ha（１％）減少した。（表６－２）

ウ　生葉収穫量（主産県）

主産県の茶の生葉収穫量は43万7,000ｔで、前年産に比べて6,800ｔ（２％）増加した。

これは、摘採面積は減少したものの、鹿児島県等でおおむね天候に恵まれ生育が順調であったことから、10ａ当たり生葉収量が前年産を上回ったことによる。（表６－２）

エ　荒茶生産量（主産県）

主産県の荒茶生産量は９万3,500ｔで、生葉生産量が増加したことにより前年産に比べて1,400ｔ（２％）増加した。

府県別にみると、静岡県が４万100ｔ（荒茶生産量の43％）、次いで鹿児島県が２万6,000ｔ（同28％）、三重県が7,490ｔ（同８％）となっている。

なお、全国の荒茶生産量は、９万5,500ｔで、前年産に比べて1,400ｔ（１％）増加した。

（表６－２、図６－１）

図６－１　荒茶生産量（主産県）

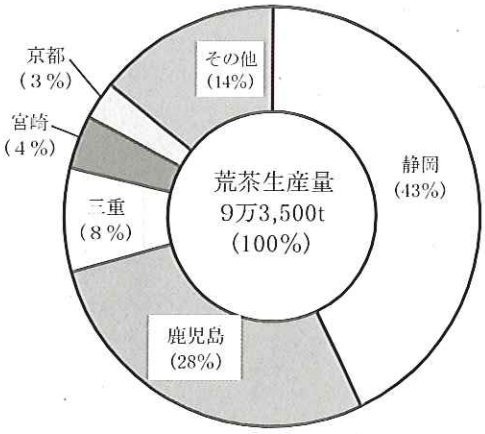


表６－２　摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区　　分	摘採面積(ha)		10ａ当たり生葉収量(kg)			生葉収穫量（ｔ）			荒茶生産量（ｔ）		
	実面積	延べ面積		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶		一番茶	二番茶
平．20年産	40 600	93 000	1 080	479	483	437 000	194 500	134 700	93 500	39 600	28 000
19	40 900	93 800	1 050	466	485	430 200	190 000	137 600	92 100	39 100	28 700
前年産対比	99	99	103	103	100	102	102	98	102	101	98

注：　主産県とは、全国の荒茶生産量（平成16年産）のおおむね80％を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業及び農業生産総合対策事業を実施する都道府県である。

(2) てんさい

ア　作付面積

平成20年産てんさいの作付面積は６万6,000haで、前年産に比べて600ha（１％）減少した。

これは、青刈りとうもろこし等への転換があったことによる。（表６－３、図６－２）

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は6,440kgで、前年産並みとなった。

これは、８月中旬から下旬にかけての低温・日照不足の影響で生育が停滞したものの、９月以降、おおむね天候に恵まれ、根部の肥大が順調であったためである。（表６－３）

ウ　収穫量

収穫量は424万8,000ｔで、前年産に比べて４万9,000ｔ（１％）減少した。

これは、作付面積が減少したためである。（表６－３、図６－２）

図６－２　てんさいの作付面積及び収穫量の推移

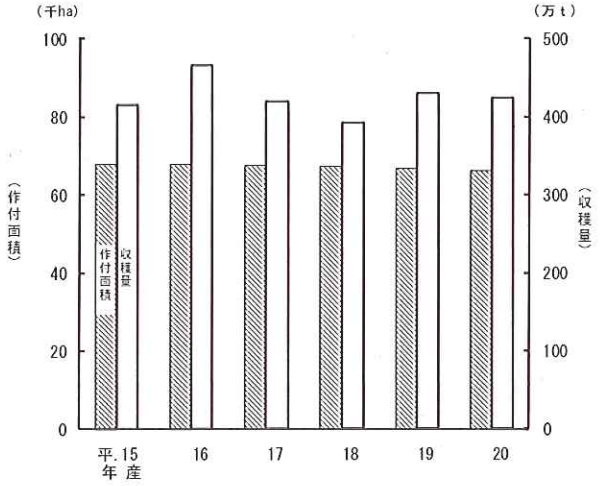


表６－３　てんさいの作付面積及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	前年産との比較 作付面積 対比	前年産との比較 10ａ当たり収量 対比	前年産との比較 収穫量 対差	前年産との比較 収穫量 対比	(参考) 10ａ当たり平均収量 対比
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%
北海道	66 000	6 440	4 248 000	△ 600	99	100	△ 49 000	99	105

注：てんさいの収穫量調査は、北海道を対象に行っている。

(3) さとうきび

ア　収穫面積

平成20年産さとうきびの収穫面積は２万2,200haで、前年産に比べて100ha増加した。

これは、平成18年産から始まった「さとうきび増産プロジェクト」による取組により春植え及び株出しの面積が増加したためである。（表６－４、図６－３）

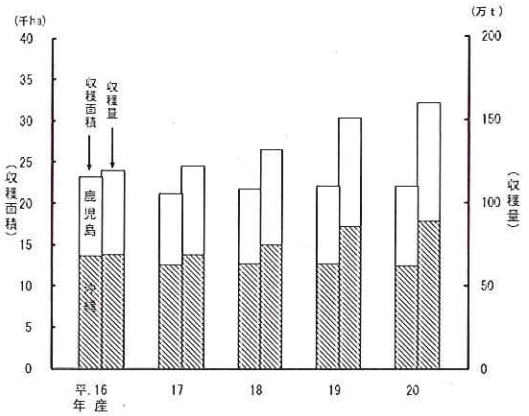
表６－４　さとうきびの作型別栽培・収穫面積、収穫量及び10ａ当たり収量

区分	栽培面積(ha)	収穫面積(ha) 計	夏植	春植	株出	10ａ当たり収量(kg) 計	夏植	春植	株出
全国 平.20	30 900	22 200	7 450	3 650	11 100	7 200	8 120	6 670	6 750
19	31 000	22 100	8 030	3 410	10 600	6 790	8 270	5 810	6 020
前年産との比較（%）	100	100	93	107	105	106	98	115	112
鹿児島	11 900	9 770	1 690	2 170	5 910	7 320	9 160	7 140	6 860
前年産との比較（%）	103	104	88	115	106	106	104	112	106
沖縄	19 100	12 400	5 760	1 490	5 170	7 120	7 820	5 940	6 650
前年産との比較（%）	98	98	94	99	103	106	97	116	121

区分	収穫量(t) 計	夏植	春植	株出
全国 平.20	1 598 000	605 300	243 500	749 200
19	1 500 000	663 900	198 000	638 300
前年産との比較（%）	107	91	123	117
鹿児島	715 100	154 800	155 000	405 300
前年産との比較（%）	110	92	128	112
沖縄	882 900	450 500	88 500	343 900
前年産との比較（%）	104	91	115	124

注：さとうきびの収穫量調査は、鹿児島及び沖縄を対象に調査行っている。

図６－３　さとうきびの収穫面積及び収穫量の推移



イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量7,200kgで、前年産に比べて６％上回った。

これは、一部地域で台風、干ばつ等の影響があったものの、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったためである。（表６－４）

ウ　収穫量

収穫量は159万8,000ｔで、前年産に比べて９万8,000ｔ（７％）増加した。

これは、収穫面積の増加に加え、10ａ当たり収量が前年産を上回ったためである。

（表６－４、図６－３）

(4) こんにゃくいも（主産県）

ア　栽培面積・収穫面積

主産県の栽培面積は3,720haで、前年産に比べて60ha（２％）減少した。

これは、生産者の高齢化による労働力不足等により作付け中止があったためである。

また、主産県の収穫面積は2,090haで、前年産に比べて200ha（９％）減少した。

これは、根腐病等が発生したことにより、種いもに振り替えられたこと等による。

（表６－５、図６－４）

表６－５　こんにゃくいもの栽培・収穫面積及び収穫量（主産県）

区分	栽培面積	収穫面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較 栽培面積	収穫面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比
	ha	ha	kg	t	%	%	%	%	%
主産県計	3 720	2 090	2 660	55 500	98	91	99	90	99
栃木	184	106	2 780	2 950	96	99	117	116	110
群馬	3 540	1 980	2 650	52 500	99	91	98	89	98

注：１　こんにゃくいもの収穫量調査は主産県調査であり、３年周期で全国調査を実施している。平成20年産については主産県を対象に調査を実施した。

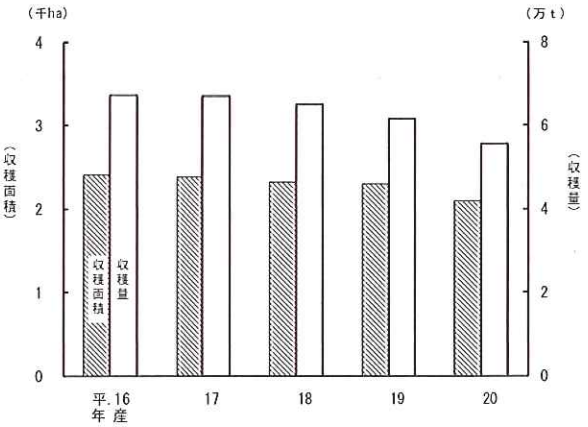
２　主産県とは、全国のこんにゃくいも収穫面積のおおむね80％を占めるまでの上位都道府県である。

イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は2,660kgで、前年産に比べて１％下回った。

これは、群馬県において、８月下旬の低温・多雨の影響により根腐病等が発生したことに加えて、いもの肥大も抑制されたためである。

（表６－５）



ウ　収穫量

主産県の収穫量は５万5,500ｔで、前年産に比べて5,900ｔ（10％）減少した。

これは、収穫面積が減少したことに加え、10ａ当たり収量が前年産を下回ったためである。

（表６－５、図６－４）

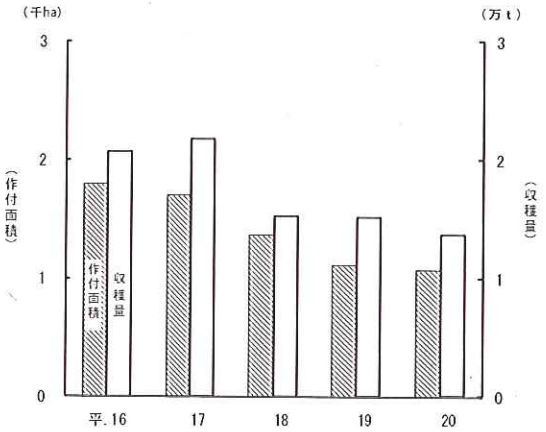
(5) い（主産県）

ア　作付面積

主産県（福岡県及び熊本県）の平成20年産作付面積は1,070haで、前年産に比べて40ha（４％）減少した。

これは、生産者の高齢化による作付中止等があったことによる。（表６－６、図６－５）

図６－５　「い」の作付面積及び収穫量の推移（主産県）



イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は1,280kgで、前年産に比べて７％下回った。

これは、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったことによる。（表６－７）

ウ　収穫量

主産県の収穫量は１万3,700ｔで、前年産に比べて1,500ｔ（10%）減少した。

これは、作付面積が減少したことに加えて、10ａ当たり収量が前年産を下回ったためである。（表６－６、図６－５）

エ　畳表生産農家数及び畳表生産量

「い」の生産農家数は806戸で、前年産に比べて45戸（５％）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は788戸で、前年に比べて22戸（３％）減少した。

なお、畳表生産農家の平成19年７月から20年６月までの畳表生産量は479万枚で、前年に比べて14万枚（３％）減少した。（表６－６）

表６－６　「い」の作付面積及び収穫量（主産県）

区分	い生産農家数	作付面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較 作付面積 対差	作付面積 対比	10a当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量 対比	畳表生産農家数	畳表生産量
	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	戸	千枚
主産県計	806	1 070	1 280	13 700	△ 40	96	93	△ 1 500	90	109	788	4 790
福　岡	33	26	1 270	331	△ 5	84	102	△ 52	86	108	33	190
熊　本	773	1 050	1 280	13 400	△ 30	97	93	△ 1 400	91	110	755	4 600

注：主産県とは、福岡県及び熊本県である。